

令和5年度 事業報告

I. 事業活動の概要

令和5年度事業は順調に推移し、令和6年3月末決算では、ほぼ計画通りの収益を確保することができました。

しかし、新型コロナウイルス感染予防については、十分注意を払い対応を強化してはいたのですが、2月にデイサービスはなかごにおいてクラスターが発生し、利用者21名、職員7名の感染が確認されました。そのため、デイサービスはなかごの営業を3日間臨時休業し感染拡大防止に努めました。幸い利用者、職員ともに重症化せず完治しましたが、利用者の方々には大変ご迷惑をかける結果となりました。

デイサービスはなかごてんま、訪問介護事業、居宅介護支援事業、給食事業の4部門では、計画との差異は生じていますが、以前のような赤字体質から脱却し、全ての事業が黒字または、赤字幅も縮小して推移し収益に貢献しています。

4月1日、JA兵庫南の福祉部門と事業統合して新たにスタートするのですが、職員間で不安の声があることも事実で、JA兵庫南からの助成支援が終了した時、以前のように赤字が大きく膨れ上がり、経営状態、労働環境が悪化するのではないかとの意見もありました。

大変厳しい状況下での新たな第一歩ですが、これからも稲穂会職員が一丸となり収支改善に努め、地域の福祉事業に貢献してまいります。

II. 事業報告

1. 通所介護事業(JAはなかご)

令和5年度の平均利用者数は28.7人(R4年度平均28.2人)と、僅かですが昨年度を上回る利用者数で推移してきましたが、2月に新型コロナウイルス感染によるクラスターが発生したため、3日間臨時休業して感染拡大防止に努めました。

臨時休業後は新型コロナウイルス感染も終息しましたが、利用を控える方も多くあり、利用者数が以前のように回復するには多くの日数を必要としました。そのため2月の利用者数は平均値を大きく下回る結果になりました。

今年度の新規利用者は48名ありましたが、利用を中止される方も22名あり、利用登録者数は96名になっていますが、現在も新規利用の問い合わせは、毎月数件あり増加傾向にあります。

また、他のデイサービスでは介護度の低い要支援の方の受入れを断ったり、要支援の方の受入れはするが入浴対応はしないデイサービスもあるようですが、JAはなかごでは断ることなく受入れを継続したいと考えています。(利用者に占める要支援者率約40%)

令和5年度 介護度別年間利用者数

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男性	27	236	732	426	353	162	34	1,970
女性	476	1,306	1,712	1,245	804	1,011	187	6,741
計	503	1,542	2,444	1,671	1,157	1,173	221	8,711
R4年度	296	1,650	2,288	2,013	882	1012	365	8,506

2. 訪問介護事業

新しくメンバーに加わった新人4名もヘルパーとしての訪問業務に慣れ、大きな戦力として頑張っていますが、勤務時間に制限があるため、部門全体でのサービス提供時間は思うように伸長せず、需要は多くあるのに答えることができないジレンマがあります。

また、長年勤務いただいたベテランヘルパー2名が、年齢的な理由から3月末日で退職されるため、今後の活動に支障を来すのではないかと危惧しています。

部門別収支は、昨年同期と比較すると約1,100千円の減益となり、次年度の対策が急務となっています。

訪問介護事業の需要は安定し高収益を確保してきましたが、新型コロナや要員不足等の影響を受け収益は減少傾向にあります。利用者、家族、ケアマネジャー、他事業所からの要望等に応え、多くの利用者を確保することが収益を安定させる方向だと考えます。そのためには、ヘルパー要員を育成確保し体制強化を図ります。

令和5年度 サービス別提供時間

	身体 介護	生活 支援	身体・ 生活	介護 給付Ⅰ	介護 給付Ⅱ	介護 給付Ⅲ	介護 給付外	計
サービス 提供時間	843	1,093	859	910	639	713	0	5,058
R4年度	703	1,487	922	1,039	727	770	22	5,670

3. 居宅介護支援事業

新規の依頼は途切れることなく問い合わせがあります。しかし、ケアマネジャー3名が担当できる利用者数の枠は、ほぼ満員の状態が続いており、担当依頼は多数あるのですが断らなければならない状況が続いています。

そのような状況を改善するために、ケアマネジャーの募集を継続していますが、応募者はなく、来期以降の課題となっています。

令和5年度 介護度別利用者人数

	介護 1・2	介護 3・4・5	介護予防	合計
利用者人数	684	329	540	1,553
R4 年度	678	291	616	1,585

4. 給食サービス事業

水道光熱費、食材費等の高騰の影響を受け、大変心苦しかったのですが、デイふぁーみん加古川への提供分も含め、食事料金を 100 円値上げさせていただきました。お陰様で、事業収支は改善され順調に推移しています。

また、食材については、これからも地産地消を基本に、ランチバイキング、イベント食等の季節感のある利用者に喜んでいただける食事を提供してまいります。

令和5年度 施設別食数・金額

	R5 年度		R4 年度	
	食数(食)	金額(千円)	食数(食)	金額(千円)
はなかご	10,005	6,093	9,741	5,547
加古川	9,158	5,094	9,317	4,721

5. 通所介護事業(JAはなかごてんま)

はなかごてんまが広く認知され、1日の平均利用者数は、オープン1年目 7.2 人、2年目は 14.5 人、3年目 22.6 人、4年目の令和5年度は 24.5 人と、伸びは緩やかにはなりましたが、着実に増加し、それに伴い利用登録者数も約 112名(女性:男性が 6:4)となりました。

また、利用者が増加したことによって、送迎が追付かない状況になり、特に昼の送迎は午前の利用者を送り、そのまま午後の利用者を迎えに行くように、時間的なロスをできるだけ軽減した配車を心がけていますが、利用者の4割が稲美町外からの利用のため広範囲に渡る送迎が必要になっています。そのため、交通状況によっては午後の開始時間が若干遅れるケースもでてきており、利用者が多い日は、はなかごからの応援で対応してきましたが、増車と送迎人員の増員を検討してまいります。

令和6年度 事業計画

Ⅲ. 令和6年度の取り組み

1. 通所介護事業(JAはなかご)

2月の新型コロナウイルスによる施設内クラスターの反省を踏まえ、予防対策は引き続き強化してまいります。

また、令和6年4月の介護報酬改定により、利用料等を含めた算定基準が変更になりますが、JAはなかごでは介護度の低い利用者だけではなく、介護度の高い利用者の受入れを継続してきた結果、中重度ケア加算の対象施設となり申請手続を進めています。

また、他の加算についても、算定基準が変更になるため、改定に沿った内容を、職員で共有し対応してまいります。

2. 訪問介護事業(JAはなかご)

訪問ヘルパーの依頼は多数ありますが、ヘルパーを希望する時間帯が同じ時間帯に集中し、要員に限りがあるため対応できないのが現状です。また、登録いただいているヘルパーの高齢化が進み、3月末に2名が退職したため、人材確保が直面する大きな課題となっています。

求人については、今までのようなハローワークや折り込みチラシ等の募集だけではなく、将来を見据えた新たな求人方法(新卒等)を検討しなければならないと考えます。

3. 居宅介護支援事業(JAはなかご)

今回の介護報酬改訂により、ケアマネジャー1名が担当できる人数が39名から44名に引き上げられましたが、要支援者は1/2人で積算するため、担当する実件数はもっと多くなり、利用者ひとりひとりに合ったケアプランの作成に不安を感じています。

このように、居宅支援事業を取り巻く状況は大変厳しいのですが、ケアマネジャーによって利用者対応が異ならないよう心掛け、利用者、ご家族の要望を聞き取り、最適のケアプランを提供してまいります。

4. 給食サービス事業(JAはなかご)

新たな献立にもチャレンジし、はなかごでの食事を楽しみにデイサービスに来ていただけるよう工夫を凝らすとともに、食材については地産地消を基本にふぁーみんショップの野菜を中心に使用します。

また、高騰する光熱費、材料費に対応するため、業務体制の見直しと調整により、コスト削減に努めるとともに、担当職員のスキルアップを図り利用者に美味しいと言ってもらえるような食事を提供してまいります。

5. 通所介護事業(JAはなかごてんま)

利用登録者数が110名を超え、開業当初からの目標であった120名が目前にきています。この利用者数を維持するためには、今まで以上に利用者の対応を細やかにしなければならないと考えますが、1日の利用者が多くなれば、ひとりひとりに対する関わりが希薄になる傾向がありますので、それを感じさせない対応をまいります。

また、JAはなかごてんまで提供している機能訓練は、理学療法士を中心に利用者個々の状態に合わせてリハビリプランを作成して取り組んできましたが、利用者の増加に伴い理学療法士による施術を全ての方に行えないケースがあるため、4月からは柔道整復師を1名増員し、理学療法士と協力して業務に当たり、利用者の機能が少しでも回復し、ご家庭でよりよく過ごしていただけるよう取り組んでまいります。

6. サービス付き高齢者向け住宅事業(ふぁ～みんの里高砂)

新型コロナウイルス5類移行後も、ご家族や来訪者には消毒とマスク着用をお願いし、また多人数での居室面会は出来るだけご遠慮頂くなどの対策は継続してきましたが、6月に入居者数名のコロナ感染が発生しました。今年度も引き続き、ご家族や来訪者の方に消毒とマスク着用の徹底をお願いし感染予防に努めます。

サービス付き高齢者向け住宅の入居率は、令和5年度は年間平均入居率が98%と満床に近い状態で推移しましたが、令和6年度においても高い入居率を目標に、入居待機者を確保し空室期間の短縮化を徹底します。

7. 通所介護事業(デイふぁ～みん高砂)

令和5年度は併設しているサービス付き高齢者向け住宅で新型コロナウイルス感染が発生し、感染拡大防止のため、デイサービスセンターの営業を3日間臨時休業しました。令和6年度も引き続き、送迎時の検温や来所時の手洗いうがいの徹底等、感染予防対策を継続徹底します。

また、令和6年度は、介護職員に占める介護福祉士の割合で算定可能なサービス提供体制加算Ⅰを取得し昨年度より高い加算算定を実施するとともに、介護ライフシステムへの登録、ADL維持加算等、新規加算を取得します。

8. 訪問介護・定期巡回事業(ふぁ～みんヘルパーステーション)

令和6年度の介護報酬改定により、訪問介護の基本報酬単価が引き下げられました。そのため、収益を確保するには身体介護を中心とした利用者の確保が必要となっています。現在、生活援助中心の利用者で機能低下が認められる場合は、速やかに担当ケアマネジャーに報告し、身体介護へのサービス変更を提案する等の取り組みを継続強化します。

また、サービス付き高齢者向け住宅ふぁ～みんの里高砂の入居者の方で機能低下が著しい方については、通常の訪問介護から定期巡回への変更を提案し利用者増へとつなげていきます。

喫緊の課題としては、ヘルパーの高齢化が顕著になっており、若い世代の職員の確保が必要不可欠となっています。

9, 居宅介護支援事業(ふぁーみんケアプランセンター)

令和6年度の介護保険報酬改定が実施され、ケアマネジャー1人が担当できる利用者人数の引き上げにより増収が見込まれます。しかし、ケアプラン等の作成書類関係に関する簡略化は行われず、ケアマネジャーの事務負担が増大するため、1人当たりの担当件数引き上げには課題が残っています。そのため、業務の効率化を図りながら利用者・ご家族のニーズを聞き取り、在宅での生活が不安なく安心して過ごして頂けるような支援を考え提供してまいります。

10, 通所介護事業(デイふぁ〜みん加古川)

令和6年度より、個別機能訓練加算、介護ライフシステムへの登録により科学的介護推進体制加算、ADL維持加算を取得します。また、対象者割合が減少したため、年度途中で算定を中止した中重度ケア加算の再取得を念頭に置き、介護度の高い利用者の受け入れを進め収支改善を図ります。

また、新たな取り組みとして、営業活動を精力的に行い、昨年度は実施していない未取引居宅介護支援事業所への営業活動を強化します。

11, 介護付き有料老人ホーム(ふぁ〜みんの里明石)

新型コロナウイルス感染予防のため制限していました、居室面会と外出の制限解除を行い、入居者のご家族の時間を大切にできるように配慮してまいります。

行事やイベントについては、状況を考慮しながら回数や内容を充実して実施し、利用者満足度の向上を図ります。

慢性的な職員不足が続いていますが、適切な人員配置を行ない、職員が安心して働ける職場環境を構築してまいります。

入居者は、平均年齢は89.5歳と高い水準で推移していますが、入居者数が退去者数を上回るように、問い合わせ等について迅速に対応し情報管理するとともに、医療機関、福祉関連施設等に空室状況と施設の情報発信を定期的に行なってまいります。

また、入居率については月間平均93.0%(67室/72室)以上を目標に取り組みを強化します。